

2012年を迎えて

つるぎ町立半田病院 事業管理者(院長) 沖津 修



美馬市医師会の先生方にはお元気で新年をお迎えになったこととお喜び申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、日本中世に書かれた隨筆、方丈記の「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」の名文が、近頃身にしみるように私は感じています。同書の著者、鴨長明は火災、竜巻、さらに都を襲った大地震などの天変地異や多数の死者を出した飢饉を経験し、それらの経験をもとに著したとされています。ひるがえって現代の日本もまた複数の災害に見舞われ、一方で少子高齢化、人口減少、国の債務問題、世界的な金融不安など重く長くのしかかる多数の問題にあえいでいます。医療の世界においては、TPPの参加に関する問題や、診療報酬改定を含む医療行政の動向を注視する必要があります。こうした中、私ども医療機関や医師会もこれから様々な面で改革を行っていくかざるを得ない状況になることは想像に難くありません。ここでは、私が提供できる比較的身近な話題について触れさせていただきます。

第一に、すでにご承知の先生方も多いとは存じますが、県立三好、市立三野、町立半田病院の西部公立3病院は、平成20年に徳島県の指導の下、「西部医療圏における適正な医療を確保するための協定書」を締結しました。以来、機能分化や医療連携による政策医療の充実が図られており、一層の地域完結型の医療提供体制を整備する計画が進んでいます。具体的には、小児救急医療では三好病院と半田病院が交代でその任にあたる。産婦人科診療では手術や当直などを互いに協力し合うことなどが、実際に行われています。連携はまだ十分とは言えませんが、今後さらに進めていけたらと考えております。

第二に、西部医療機関ネットワーク化が県の主導によって現在検討中です。これは上記

の西部公立3病院と、美馬・三好医師会に所属する医療機関を包括して医療情報を相互にやり取りしようというものです。具体的には電子カルテ参照による連携、紹介状システムの運用、地域連携パスの運用など3つの項目が目標とされています。このネットワーク化が整備されたならば、3病院が情報をかかりつけ医の先生方に発信することができ、画像情報などを瞬時に閲覧可能となることでしょう。さらには、医師会の先生方からの紹介もよりスムーズとなることでしょう。また、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病など急性期のみならず慢性期の加療やリハビリテーションが重要な役割を占める疾患においても、病診連携がより堅固なものとなり、患者管理をより効率的、かつ一貫性を持ったものにできる可能性が広がります。現在美馬市医師会の役員の先生方に参画いただいて協議中の段階ですが、医師会全体の先生方のご理解とご協力をお願いします。

第三に私事とはなりますが、つるぎ町立半田病院は病院建物の耐震化を目的として南病棟建て替え工事に入りました。南病棟を取り壊し、今年中に同地に新しい建物を建設する予定です。そのため病院内が面積的に狭くなり、一時的に病床数は134から89床に減少します。先生方には御不便とご迷惑をおかけしますが、なにとぞご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、新病棟完成の暁には120床となる予定です。また、当院では12月末をもちまして三村前事業管理者が退職いたしました。それを受け私が事業管理者となりました。本来であれば、先生方に拝眉してご挨拶申し上げるべきところ、この場を借りて申し上げることをお許しください。

最後になりましたが、本年が美馬市医師会ならびに先生方にとりまして良い年となりますことを心から祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。